

教育研究上の目的

食品開発学科は、食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスの知識を基盤として備え、さらに、【健幸】の支援に寄与することを目指して新たな食品を創造し開発できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

食品開発学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 食品開発の基盤となる領域の専門的知識と確かな技術を備え、人々のさまざまなニーズに応える食品の開発を科学的に思考し、探求できる力を備えている。
2. 多様な価値観をもつ他者と相互に理解し合い、連携・協働して、食品の開発や食サービスに取り組むことができる力を備えている。
3. 食に関わるさまざまな課題を見出し、高い倫理観と科学的根拠に立脚した判断力、食品を創造し開発する能力で課題に向き合い、人々が【健幸】で持続可能な社会の実現に貢献する力を備えている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（食品学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 食に関わる基礎的知識と食の開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識と技能を身につけている。
2. 食品を創造し、開発するために必要な情報収集能力、言語能力を身につけている。
3. 食品を創造するための開発研究を推進する能力と加工食品を製造、販売し、その情報を発信する実践力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. 科学的根拠に立脚し、論理的に思考、判断できる能力を有している。
2. 食の専門家として、論理的でわかりやすい文章作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有している。
3. 食に関わるさまざまな問題について、多面的に考え、判断する能力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1. 食の専門家としての倫理観、責任感を身につけている。
2. 食の専門家として、新たな食品の開発や食サービスを通して社会に貢献する意欲を備えている。
3. 食に関わるさまざまな課題に関心を持ち、主体的かつ継続的に学修する意欲と態度を有している。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

食品開発学科では、食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を備えた人材を養成する。さらに、高度な食品開発研究を推進し、食農体験、カフェ実習、商品開発企業演習に参画し、卒業研究を通して高度な専門性を活用した課題解決能力を育成する。これらの学修により、食品開発に対する多様なニーズに応える高度な専門知識と技術を修得させることが本学科の特色である。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

「食の科学」区分

1. 食品開発の基礎となる科目を配置し、科学的思考力を修得する。
2. 情報収集能力、言語能力に関する基礎知識と基本技術を修得する。
3. 食の科学分野における課題に向き合うための知識と技術を修得する。
4. 専門性の高い知識を修得する。
5. 食の科学分野で得た知識・技術に基づき、食の専門家としての文章作成やコミュニケーション技術を有する。
6. 課題に対し、科学的根拠に基づき思考し、判断できる能力を修得する。
7. 食の専門家として必要な科学知識と技術を統合している。
8. 他者と協働かつ主体的に、文章作成やプレゼンテーションを行うことができる。
9. 課題に対し、他者と協働かつ主体的に解決できる能力を修得する。

「食の開発」区分

1. 食品を創造し、開発するために必要な専門的知識と技能を修得する。
2. 食品を開発するための情報収集力、開発した商品の情報を発信する能力を修得する。
3. 食の開発に関わるさまざまな課題に向き合うための知識と技能を修得する。
4. 食品を創造し、開発するための思考力、判断力、表現力を向上させる。
5. 食の開発を実践するプレゼンテーション能力を修得する。
6. 自ら食の開発に関わる課題を見つけ出し、課題解決に向けて多面的、論理的に思考できる能力を修得する。
7. 新たな食品の開発を通して社会に貢献する意欲を備え、自主的、継続的に学習する態度を有する。
8. 多様な人々と協働して食品の開発に取り組むコミュニケーション能力を修得する。
9. 食の開発に関わる課題に主体的に向き合い、多様な人々と協働して課題の解決に取り組む能力を修得する。

「食のおいしさ」区分

1. 食品開発に必要な調理や食品加工の基礎を修得する。
2. 食のおいしさについて、専門家として論理的でわかりやすい文章を作成し、コミュニケーションをはかり、プレゼンテーションができる基本技術を修得する。
3. 食のおいしさに関する課題に向き合う、知識と技能を修得する。
4. 食のおいしさを科学的に分析するための知識と技術を修得する。
5. 食のおいしさについて、専門家として論理的でわかりやすい文章を作成し、コミュニケーションをはかり、プレゼンテーションができる思考力や判断力を有する。
6. 食のおいしさに関するさまざまな課題に関心を持ち、論理的に思考・判断できる知識と技術を修得する。
7. おいしさについてより実践的に学び、高度な知識と技術を修得する。
8. 食のおいしさについて、専門家として主体的に論理的でわかりやすい文章を作成し、コミュニケーションをはかり、プレゼンテーションができ、さらに社会に貢献するための知識と技術を統合している。
9. 食のおいしさに関するさまざまな課題について、主体的に多面的に考え、判断できる知識と技術を修得する。

「食の安全と安心」区分

1. 食品の安全性に関わる関連法規に関連する知識を修得する。
2. 食の安全と安心に関して他者とリスクコミュニケーションを行うスキルを修得する。
3. 食の安全と安心、機能性に関わる課題に向き合うための知識と技術を修得する。
4. 食の安全と安心に関する基礎的な知識と技術を修得する。
5. 科学的根拠を客観的かつ論理的に表現する。
6. 論理的な思考力と判断力と表現力を修得する。
7. 食の安全と安心に関する高度な演習・実験を行い、専門性の高い知識と技術を修得する。
8. 他者と協働し、高度な演習・実験・実習を行い、実践力を向上させる。
9. 課題に対して主体的に活動し、他者と協働して対応できる能力を修得する。

「食の機能性」区分

1. 食品の機能について基礎知識を修得する。
2. 食品の機能について基礎知識を説明できる。
3. 食品の機能についての課題を説明できる。
4. 食品の機能について科学的に思考できる。
5. 食品の機能の科学的根拠を説明できる。
6. 食品の機能について課題を科学的に解決できる。
7. 食品の機能について科学的に判断できる。
8. 食品の機能の科学的根拠を判断できる。
9. 食品の機能についての課題を総括できる。

「食のビジネス」区分

1. 食品開発のプロセスや成果を国際的に発信する能力や、食品開発にかかる研究領域において活躍できる能力を修得する。
2. 食品の開発、製造、販売、流通のために必要な知識、語学力を身につける。
3. 市場ニーズを発掘しニーズに沿った開発研究を推進する能力と加工食品を製造、販売し、その情報を発信する実践力を有する。
4. 実践的な高度な能力を修得する。
5. 食の専門家として、論理的でわかりやすい文章作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。
6. 食の開発、製造、販売、サービスに関するさまざまな問題について、多面的に考え、判断する能力を有する。
7. 食の専門家としての倫理観、責任感を身につける。
8. 食の専門家として、新たな食品の開発、提案や食サービスを通して社会に貢献する意欲を備える。
9. 食の開発、製造、販売、サービスに関するさまざまな課題に関心を持ち、主体的かつ継続的に学修する意欲と態度を有する。

演習・卒業研究

1. 身につけた知識と技術を活用しながら論理的思考に基づき研究を遂行する能力を有する。
2. 科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う。
3. 自己の研究課題に向き合うための知識と技術を修得する。
4. 思考力や応用力、専門的な知識や技能を深め、PDCAの全ステップを遂行する。
5. 研究によって得られたデータを科学的根拠に基づき客観的かつ論理的に表現する。
6. 研究課題に対して論理的な思考力と表現力を修得する。
7. 研究課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養う。
8. 主体的かつ継続的に研究を遂行する意欲と態度を有する。
9. 主体的かつ他者と協働しながら研究遂行能力を修得する。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

食品開発学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。

1. 食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関して興味・関心があり、主体的、継続的に知識や技術を学ぶ意欲がある。
2. 人々の健康や幸せに寄与する食品を創造するための開発研究に強い興味・関心がある。
3. 将来、食のスペシャリストとして、新しい食品の創造・開発や食サービスを通して、社会に貢献する意欲がある。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 高等学校卒業レベルの基礎学力を有している。
2. 食に関わる基礎的な知識を有し、他者に説明できる。
3. 食の科学を学ぶために必要な生物や化学の基礎的な知識を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. 多面的で論理的な思考力を有している。
2. 倫理観が高く、責任ある行動や発言をすることができる。
3. 自分の考えや取り組みの成果等を論理的に表現し、他者に伝えることができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 向上心を持ち、自主的、継続的に学修に取り組む意欲を有している。
2. 自ら考え、積極的に行動することができる。
3. コミュニケーション能力を有し、他者との協同作業を円滑に行うことができる。